

生産、消費は概ね改善傾向 住宅着工は減速続く

4月の鉱工業生産指数は、前年同月比（原指数）で3カ月ぶりのプラスとなった。主に、電子部品・デバイス工業や化学工業などが上昇し、改善傾向を示した。

消費では、乗用車新車販売台数が6カ月連続のマイナスとなるなど一部に弱い動きも継続している。しかし、大型小売店販売（百貨店・スーパー）では、既存店（店舗調整後ベース）で同+2.0%と26カ月連続でプラスを維持。ドラッグストアも同+4.7%と24カ月連続のプラスとなるなど、概ね改善傾向となった。

一方で、5月の住宅着工戸数は▲12.7%と3カ月連続のマイナス。中でも持家は▲6.4%のマイナスで、前月と比べマイナス幅は縮小しているものの、16カ月連続のマイナスと減速が続いている。

各指数の矢印については
現状の景況感をあらわす。



上向き



横ばい



下向き

鉱工業生産指数

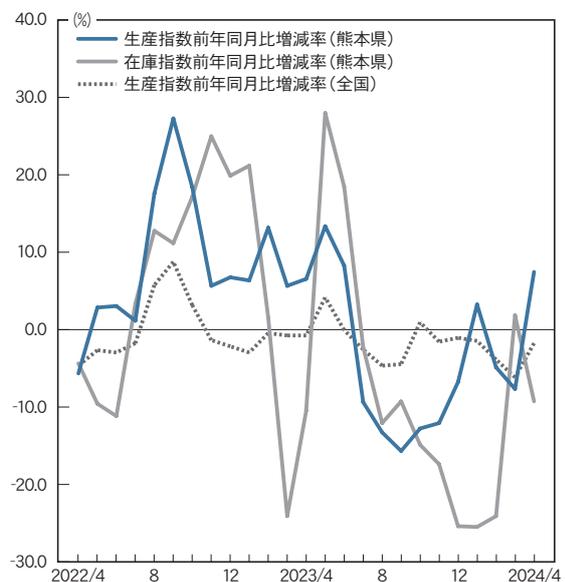


3カ月ぶり前年比プラス（4月）

4月の鉱工業生産指数（原指数）は、前年同月比+7.4%の116.8と3カ月ぶりにプラスとなった。

生産指数（原指数）を業種別にみると、電子部品・デバイス工業（前年同月比+50.1%）や化学工業（同+25.8%）などの業種で上昇したが、パルプ・紙・紙加工品工業（同▲45.9%）や電気機械工業（同▲28.4%）、木材・木製品工業（同▲14.0%）などの11業種で低下した。なお、電子部品・デバイス工業の分類に含まれる集積回路は147.8（同+58.4%）と7カ月連続で上昇した。また、出荷指数（原指数）は115.5（同+8.2%）と3カ月ぶりのプラス、在庫指数（原指数）は75.4（同▲9.3%）と2カ月ぶりのマイナスとなった。

鉱工業生産・在庫指数前年同月比（2020年=100 原指数）



資料：熊本県統計調査課、経済産業省

住宅着工



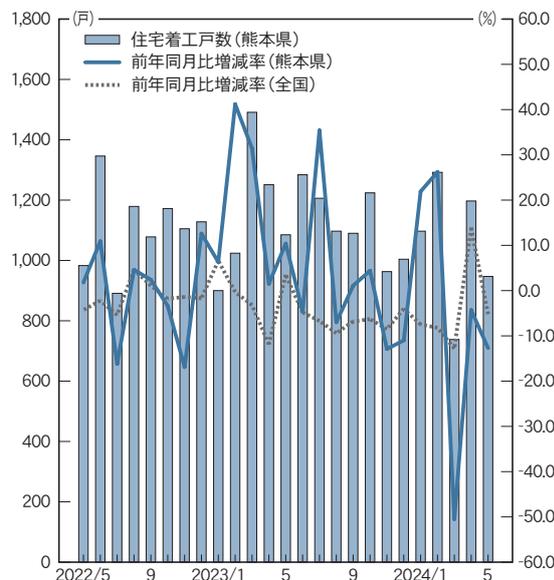
着工戸数は3カ月連続前年比マイナス（5月）

5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲12.7%の947戸となり、3カ月連続のマイナスとなった。マイナス幅は前月から再び拡大した。

利用関係別にみると、持家が339戸（前年同月比▲6.4%）、貸家は464戸（同▲19.7%）、分譲は140戸（同▲0.7%）となっている。持家が前年同月比を下回るのは16カ月連続となった。建築資材価格や人件費の上昇が進み、着工戸数は継続的に減少している。TSMCなどの企業進出に伴う土地価格の高騰や、金利上昇への懸念なども影響していると考えられる。

なお、全国の5月の新設住宅着工戸数は、65,945戸（同▲5.2%）となっており、2カ月ぶりマイナスとなった。

新設住宅着工戸数前年同月比



資料：国土交通省

公共工事



請負金額は前年比プラス（6月）

6月の公共工事件数は前年同月比▲7.2%の467件となり、請負金額は同+0.1%の242億円と

公共工事請負金額前年同月比

以降は会員専用ページにて公開しております。
ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)